

	項 目	状 態
身 体	麻 痺	なし
	関 節 の 動 き	可動域に制限はないが、右ひざをかばう事がある。(右大腿骨骨折)
	床 ず れ の 有 無	なし
	視 力	普通
	聴 力	普通
動 作	寝 返 り	できる。
	起 き 上 が り	できる。
	立 ち 上 が り	できるが右足をかばうことがある。
	座 位 保 持	安定した座位を取れる。
	立 位 保 持	立位可能
	歩 行	できる。
	移 乗	自立している。
	移 動	外出時は杖を使用する。
食 事	食 事 行 為	自分で食べる。
	水 分 の 状 況	自分で飲める。
	嚥 下 の 状 況	良好である。
排 泄	排 泄 行 為	尿・便意はあり、失禁もある。
	尿	リハビリパンツ使用。
	便	下剤を使用しているためトイレに間に合わずリハビリパンツを汚す。
整 容	洗 面 行 為	自立している。
	体 を 洗 う 行 為	自分で洗える。
	口 腔 ケ ア	自歯があり歯磨きやうがい、本人が行うがみがき残しがある。
	洗 髪	自分で行う。
	整 髪	ブラシを渡せば、整えることができる。
	爪 切 り	足の爪は介護者が切る。
	衣 類 着 脱	着脱は出来るが季節にあった衣類の選択ができない時がある。汚れた衣類を再び着てしまう。
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	日 常 の 意 志 決 定	簡単なことはできる。
	指 示 へ の 反 応	その都度言葉かけが必要。
	記 憶 ・ 理 解	時々物忘れがある。長文の理解は時々できない。
	意 志 の 伝 達	意思の伝達は出来るが判断、決定は時々迷うことがある。

	項 目	状 態
調理	献 立	同じメニューばかりになってしまう。
	切 る	言葉かけ、手本があればできる。
	炒める・煮る	1人では行わない。
	味 付 け	加減が上手くできなくなったため塩辛くなったり、甘くなったりする。
	盛 り 付 け	量の偏りがあるもできる。
洗濯	洗 う	洗濯機の操作ができなくなった。
	干 す	できる。
	た た む	できるが綺麗にはたためていない。
	片 付 け る	仕分けができない。
買い物	品 物 選 び	同じものを沢山買ってしまう。
	支 払 い	小銭での支払いはできない。お札で支払いお釣りをもらう。
	購入品の片づけ	冷蔵庫に時々不用品（歯磨き粉等）が入っている。
掃除	掃 く	玄関を箒で掃くことはできる。
	拭 く	出来るが拭き残しが多い。
	整 理 整 頓	片付ける場所を忘れてしまう。
縫物補修	糸 通 し	できない。
	縫 う	見守り言葉かけがあればできる。
	修 復	指示があればできる。
	針 の 管 理	できない。
金銭管理	日常の金銭管理	簡単なことはできる。
	通 帳 管 理	息子が管理している。
	支 払 い	お札での支払いのみできる。
電話	掛 け る	番号を忘れてしまい、かけられない。
	出 る	出られるが要件を忘れてしまう。
通院	受 診	月に1度、定期受診に家族が付き添う。
	処 方 箋	家族が1回分を1週間ごと本人に渡して管理。残薬はないが、決められた時間に服薬しているかは不明である。下剤は液体のため何滴服薬しているか不明、通常1日3滴だが減り方が月により異なる。

事例の概要

平成 29 年 8 月 11 日

① 基本情報

氏名	山本 洋子（仮名）
生年月日	昭和 14 年 10 月 15 日（77 歳）
性別	女性
要介護度	要介護 1
障害高齢者自立度	A 2
認知症高齢者自立度	II b

② 生活状況

専業主婦。3 年前に夫が急死した。それまでは夫や友達と旅行によく出かけていた。現在は会社勤めの長男（独身）と二人暮らしをしているが日中は独居になる。次男夫婦は市内で生活をしており、共働きのため月に 1~2 回程度、様子を見にくる。夫が亡くなるまでは、家事を取り仕切り、特に料理は得意だった。ところが、夫が亡くなり、しばらくすると物忘れがひどくなり、料理の味付けが上手くできなくなり、献立も同じものになったり、鍋を焦がしたりなどの調理の失敗も多くなる。長男からは「最近味付けがかなり甘かったり、塩辛かったりして困る」また「下剤を飲むと夜中に排泄の失敗があり、後始末をどうしているのか心配だ」と話がある。もともと綺麗好きで昔から自宅では常にエプロンをしている。過去にお風呂の長湯が原因となり、意識低下を起こし救急搬送されたことが 3 回ある。2 年前の右大腿骨骨折をした際もその時に転倒したのが原因である。

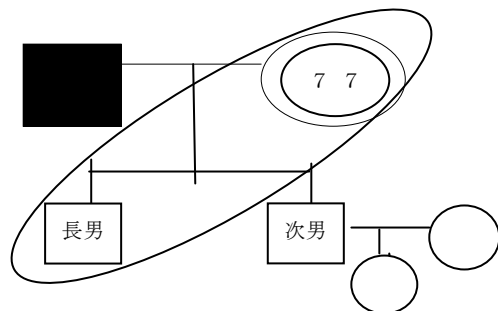
③ 健康状態等

アルツハイマー型認知症（2 年前に発症 1 日 1 回イクセロンパッチを貼る。）
高血圧症（60 代のころから 現在は服薬で落ち着いている。）
便秘症 下剤を服薬

④ 趣味

料理

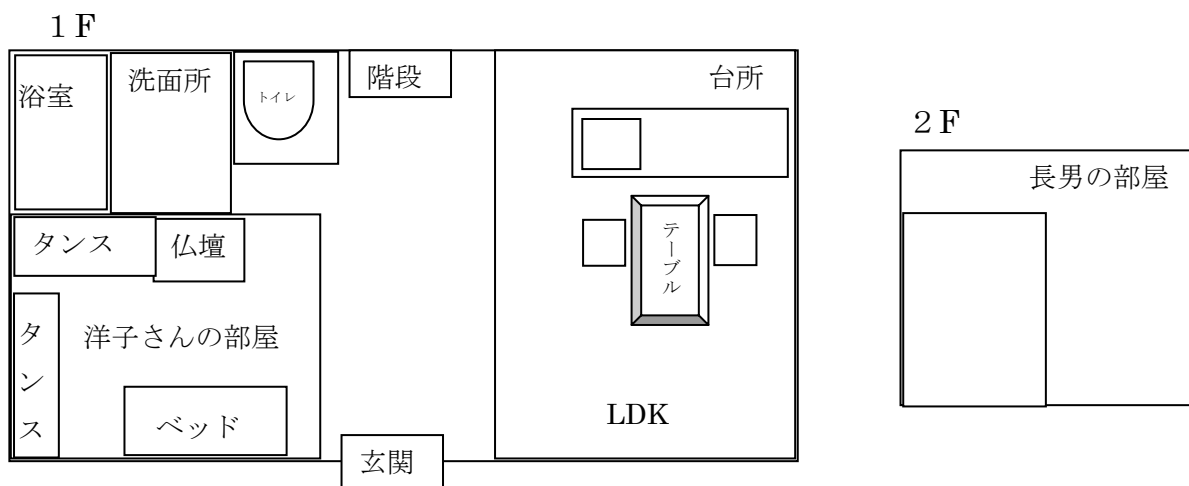
⑤ 家族構成



⑥ 使用福祉用具

杖（自費）

⑦生活環境 自宅 持ち家 2階建て



⑧生活習慣

常にエプロンをしている。

⑨サービス利用状況

訪問介護 週3回利用

利用時の様子

ヘルパーが来ると笑顔で台所に行かれる。手洗いを促しながら、昨日、今日の体調を聴きとり、気になる事は連絡帳に記入して長男に報告をしている。冷蔵庫の中の食材を一緒に確認して献立を決めている。冷蔵庫内の食べ残しや賞味期限切れの物を本人に了解を得ながら処分をしている。包丁さばきがとても上手で、キャベツの千切りなどはお店顔負けの腕前である。ヘルパーの誘導、言葉かけにより二人分の料理を作っている。ヘルパーが援助を終えて帰った後（30分後位）に長男と一緒に食事を摂っている。たまに長男から料理の感想が記入されている。

デイサービス 週2回利用

利用時の様子

同日利用者の3名と仲良くしている。名前や段取りが分からない場面も見られるが、笑って取り繕うことが出来るので、仲良くされている方達とはうまく付き合えている。午前中に入浴のスケジュールになっているが、時々拒否が見られる。おやつ前後の時間に帰宅願望を示すこともあるが、話をすると納得してくれる。

ショートステイ 2泊3日を月2回利用

利用時の様子

入所された日の午前中は、落ち着かない様子が見られるが、午後には他者と楽しそうに会話されたり、洗濯たみのお手伝いをされる等穏やかに過ごされている。自宅での下剤の量が不明のため、利用中に失敗することもある。また、夜間に室内を歩き回ったり、荷物に触ったりしていることもある。排泄支援を行う際は、迷惑を掛けたくないという気持ちがあるので、言葉かけの工夫をしているが、トイレに座る時には、すでにリハビリパンツが汚れていることがほとんどである。